

特集 新しい文化立国をめざして

巻頭言 ● 6 固有と共有の共成・三善 晃

座談会 ● 8 新しい文化立国をめざして
(出席者 高階秀爾／小島美子／鈴木忠志／遠山敦子)

論文 ● 18 文化立国と美演家・小泉 博

● 22 劇場が新しい時代を創る
ピッコロシアターの試み・山根淑子

● 26 指定制度と登録制度
文化財保護制度の新たな展開・鈴木博之

随想 ● 30 芸術家在外研修の思い出・奥谷 博

事例紹介① ● 32 新しい芸術文化施設の運営をめざして
・水戸芸術館

事例紹介② ● 36 からむし生産技術保存事業の展開
・昭和村からむし生産技術保存協会

資料 ● 40 新しい文化立国をめざして
文化振興のための当面の重点施策について(報告)
・文化政策推進会議

カラー

- 1 いま、個性ある日の学校訪問記
・櫛形町立櫛形西小学校(山梨県)
- 4 天然記念物歳時記
・高瀬渓谷の噴湯丘と
球状石灰石(長野県)
- 表2 名作シリーズ・絹本著色聖徳太子絵伝
- 表3 文化財紹介・輪島塗

- 50 人・この道・深尾良夫
- 51 教育・文化と地域づくり④・山口県徳地町
- 54 東京・文教施設
- 64 中教審ニュース
- 67 私の本棚から・香川芳子
- 68 都道府県別―教育・学術・文化ニュース
・山形県・兵庫県・富山県・長崎県
- 70 こんなにはじっぽん・キン・マウン・キョー
- 72 96アトラクター我が国競技スポーツの最前線
・ソフトボール
- 74 科学はいま―理工系へのいきな
・東京大学海洋研究所
- 77 鑑賞席・現代マヤ
色と織に魅せられた人々
- 78 ぼんた、わたしたちのウィークエンド
・国立妙高少年自然の家
- 80 海外教育ニュース
- 82 文学のふるさと・われは草なり
- 84 編集後記

芸術家在外研修の思い出

私が第一回文部省派遣芸術家在外研修員として渡仏したのは、寒さもきびしくなる一月半ばであった。パリの街は、昔の記念的な建物がいまま多数残っていてそれが美しくとけこんでいる。また、空気が澄んでいて遠くまで色や形が見やすいところに油彩画の生まれ育ってきたことが理解できる。夏はあまり暑くなく八時ごろになっても日は沈まず、冬は大変寒く、一〇月ごろから三月ごろまでは雨の多い毎日で、住んでいる人たちは郊

外に出なければ太陽を見ることがも日光浴もほとんど言っていないほどできない。人間の気持もそのように暗くなるし身体に抵抗力もなくなる。そのため七、八月は太陽を求めてバカンスに行くようになったのである。おかげに言えば七、八月は、パリジャンたちはバカンスに繰り出して街には観光客ばかりになってしまふ。パリの街は石を並べて石畳の道路を作り、必ず歩道のあることには感心する。郊外に出て田舎町の小さな私道に近いよ



おくたに・ひろし 高知県出身。洋画家。独立美術協会会員。第1回文部省派遣芸術家在外研修員となる。芸術選奨文部大臣賞、宮本三郎記念賞、東郷青児美術館大賞、昭和会賞、独立賞など受賞。現在文化庁芸術家在外研修員代表世話人。

うな道でもほとんど舗装され、歩道には必ず青々とした大きな並木があり公園が多い。いたるところに立派な公園があるのんびりと休んだりおしゃべりの場所になっている。それと下水道が大変発達していて、朝夕青い服を着た若者が、道路の脇の下水道への小さな穴から塵を洗い流している。一昨年パリに出かけたが、郊外に新都市ができつつあるのを除けばあまり変化は感じなかったが、掃除の若者の服がグリーン色に変わっているのはさすがファッションの国と思った。モンパルナスのアカデミーにも時々出かけたが、フランスの伝統的な勉強の方法は、日本の美術学校などと特に違ったところはないが、自由制作教室、静物教室などという教室があり、静物教室では自分の好みのモチーフを組み合わせて制作中動かさないうでください」などと書いておけば、自分の納得するまで制作することができ。裸婦習作教室には、ポツティチェリの描いたヴィーナスのような足の長いモ

デルさんが居るのには吃驚した。教授は普通木曜日と土曜日の制作の終わったころに来る。日本の美術学校などでは時間になればさつきとモデルさんは帰ってしまうが、終わっても先生が指導している間はポーズをしていて、それを見ながら教授は批評をする。日本だと二〇分ポーズをして一〇分休むが、フランスでは四〇分ポーズをして二〇分休みなのは制作に集中できて勉強するのに大変良いと思う。デッサンとコンポジションのことは特に厳しいと思った。デッサンという考え方が非常にはっきりとした線を持ち、絵画的に面白いとかの問題は二の次で、まず形の追求を徹底させられる。そのかわりその段階が過ぎると非常に自由にのびのびと自分のやりたいことをやっているように思った。ヨーロッパから帰国してなんだか世界が身近に考えられ、自分としても大きく目を開いていかねばと考

特集 ユネスコ 50周年

●巻頭言
ユネスコの50年——三浦朱門

●座談会
ユネスコと我が国が
果たすべき役割

(出席者)猪口邦子/西島安則
三角哲生/岡倉 本間政雄

●論文
世界の教育とユネスコ——潮木守一

●エッセイ——青木怜子

●事例紹介——宮崎県立北高等学校ほか

特別記事

民間社会教育事業—その役割と展望

人・この道——大岡 信

教育・文化と地域づくり——大分県野津町

都道府県発——教育・学術・文化ニュース

栃木県・静岡県・京都府・熊本県

編集後記

▽今月号の特集テーマは、「新しい文化立国をめざして」です。戦後五〇年を迎え、経済的には大きな豊かさを求める「文化の時代」といわれております。

文化庁に設置されている文化政策推進会議において、新しい文化立国を目指して今世紀中に推進すべき重点施策六項目についての提言を取りまとめられました。今月号では、この報告を踏まえて、推進すべく文化政策の諸課題について特集しています。

▽今年、芸術祭五〇周年でもあります。第五〇回を記念し、一〇月一日から十一月一日までの間、二〇の公演等が東京(一公演は大阪)で行われます。読者の皆さんにも御覧いただければ幸いです。詳しい公演内容は、文化庁芸術祭執行委員会(〇三―三五八一―二

八五七)までおたずねください。▽読者の皆さんは新国立劇場について御存じでしょうか。

新国立劇場は四面舞台を有する大劇場をはじめ三つの劇場を持ち、オペラ、バレエ、演劇等の現代舞台芸術上演のための劇場として世界的な規模で、東京・初台に建設が進んでいます。四年半におよぶ大工事で平成九年二月に完成し、秋には、梅落しが盛大に行われる予定で、関係者にとっては、本当に待ち遠しいところと思えます。また、隣接地には民営のコンサートホールをはじめとする文化施設も完成する予定で、二年後には他に類をみない文化発信の街が初台に完成します。数年前、この新国立劇場(当時は第二国立劇場(仮称))と言っていました(が)の建設に携わっていた私にとっても待ち遠しいところです。(T・K)

投稿歓迎

●投稿規定
感想、御意見等をごしどしお寄せください。本誌を読んでの御感想、御意見等をどしどしお寄せください。

①一件につき四〇〇字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈

●送り先
※文章を一部手直しさせていただくことがあります。

〒100東京都千代田区霞が関三―二―二

文部省大臣官房政策課 「文部時報」編集部

平成7年9月10日印刷
平成7年9月10日発行

- 著作権所有——文部省
- 発行所——株式会社 ぎょうせい
本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161
- 印刷所——株式会社行政学会印刷所

定価550円(本体534円)(〒84円)
年間購読料6,600円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。